

2023

7.19 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_rr2LmLATTh-wFy3\\_dUtWaQ](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_rr2LmLATTh-wFy3_dUtWaQ)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 授業における聴覚障害のある 児童・生徒・学生への教育・支援のあり方

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

聴覚障害

情報保障

ノートテイク

下中村 武 助教

九州大学 基幹教育院



鹿児島県出身です。2018年3月に兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科を修了し、博士(学校教育学)を取得しました。その後、東京にある社会福祉法人聴力障害者情報文化センター職員を経て、2019年4月に九州大学基幹教育院・学術研究員に着任し、2022年4月から基幹教育院・助教となりました。主な研究テーマは、授業における聴覚障害のある児童・生徒・学生への教育・支援のあり方です。教育・支援の中でも、情報保障(聞こえていれれば得られているはずの情報を提供する)という考え方を柱にして、学習機会の保障のあり方について研究しています。最近では、これらの情報保障のうち、文字による支援(ノートテイク)に関連した実践を行っています。具体的には、小学校から大学の授業における遠隔情報保障の導入や、ノートテイクを担う学生(ノートテイク学生)の養成等に取り組んでいます。

聴覚障害のある児童・生徒・学生は、聴力レベルによって、聞き取れない、聞き取りにくいことが困難として挙げられます。特に、小学校から大学では、授業内容やクラス内の会話、グループワーク等の内容が把握しにくいことから、授業そのものに参加することが難しく、学習機会が十分に保障されていない場合があります。これらの状況に対して、授業方法の工夫や補聴援助システムの使用、授業内容を文字情報として提供するノートテイク等が重要となります。これらの方法も含めて、教育・支援のあり方について考える機会にしたいと思います。